

診療科別放射線科 プログラム（選択）

2026_KTGH

頁

1/4

研修の特徴	専門研修を見据えた、より専門的な画像診断に取り組みます。 毎日科内でショートカンファを行っており、教育的症例や稀な症例にも取り組んでおり、開業医からの委託検査にも対応しています。 また、放射線治療科研修では、実際の治療計画や患者管理に参画します
研修医に周知しておきたいこと	①8：30 6 棟 B1 画像診断室に出勤してください ※研修初日が休みの時は、事前にお知らせください
	②直入り・明けや研修医行事、有休などの予定は、 画像診断室ホワイトボードの研修医用カレンダーに記載してください
	③その他の時間帯は、画像診断書作成が主な業務で、随時 IVR にも参加してください。火曜日に 1 回放射線治療の研修があります
	④毎日 11：40 頃からの症例検討会・抄読会に参加してください。 また、抄読会では 1 回発表してください
	⑤総じて疑問点は、積極的に質問ください
診療科カンファレンス予定	月曜日】消化器外科カンファ 火曜日】呼吸器外科カンファ 水曜日】耳鼻咽喉科カンファ 金曜日】産婦人科カンファ 第 1, 3 木曜日】小児科カンファ

1. 指導医（○：責任指導医）

○北瀬 正則、内山 薫、西川 浩子、久米 真由美

2. 一般目標

2.1 診断部門

画像から病態を認識し、治療に役立てることができるようになるために、画像診断の基本となる臨床解剖を修得し、日常的な放射線検査の適応とその限界を理解する。

2.2 放射線治療部門

放射線治療のがん治療における役割を理解し、適応症例を判別できるようになるために、放射線治療の流れや治療計画の実際に立会い、治療中・後の患者の状態の変化を診療現場で体験する。

3. 個別行動目標

3.1 診断部門

- (1) CT、MRI にて、全身の解剖を修得する。また、診断可能な基本的疾患の所見を覚え、迅速な診断ができるようにする。
- (2) CT 検査における単純と造影の違いを経験し、実際の検査依頼の際に的確に選択できるようになる。
- (3) CT において、検査の基本原則を知識として修得する。
- (4) MRI において、検査の基本原則を知識として修得する。
- (5) アイトープ検査の基本原則を知識として修得する。
- (6) CT と MRI の造影剤の副作用とその対応についての知識を修得する。
- (7) 救急疾患の際の IVR の適応を理解し、実際の手技を現場で体験する。

3.2 放射線治療部門

診療科別放射線科プログラム（選択）

頁

2/4

- (1) 放射線治療の初診から、適応検討、患者への説明、治療計画、そして治療開始までの診療の流れを理解する。
- (2) 末期がん患者の心理面や立場に留意し、人道的な診療と対応ができるようにする。
- (3) 病期分類、効果判定基準、有害事象共通用語規準を臨床において適切に使用できる。
- (4) 放射線治療室における各々のスタッフの役割を理解する。
- (5) 放射線治療の適応となる病態を把握する。
- (6) 放射線治療開始前から治療中・治療後における患者の状態の変化を理解する。

4. 学習方略

4.1 2年次の選択研修：4週以上

- 4.2 8：30 6棟B1画像診断室に集合する（研修初日を不在にする際は、事前に通知のこと）。また、直入り・明けや研修医行事、有休などの予定は、画像診断室ホワイトボードの研修医用カレンダーに記載する

4.3 読影

- (1) PACS の使用法を身につけ、迅速な操作ができるようにする。
- (2) CT、MRI で所見を拾い上げ、その後に指導医と共に所見の確認を行う。
- (3) 所見に基づいて質的な診断、評価を行う。
- (4) 所見、診断をレポート形式で記載できるようにする。教育症例を観察し、指導医とともに所見、診断の確認を行う。
- (5) CT、MRI の読影を行い、5例以上レポートを作成する。

4.4 放射線治療

- (1) 放射線治療室を見学し、各スタッフの連携や治療の流れを把握する。
- (2) 紹介患者のまとめを電子カルテに記載し、指導医の承認を受ける。
- (3) 紹介患者に対する放射線治療の適応を指導医とともに検討し、診察・説明・同意の際には同席する。
- (4) 指導医とともに治療計画を行う。
- (5) 治療中・治療後の患者の診察に同席する。

4.5 IVR

- (1) IVR に参加し、手技を見学し、検査・治療の流れ、必要物品について知る。
- (2) Seldinger 法による穿刺を安全にできるようにする。
- (3) 手技終了後の止血処置が的確に行えるようにする。
- (4) IVR で被曝に配慮した行動をとる。

4.6 症例検討会、論文抄読会

- (1) 毎日 11：40 頃、画像診断室での症例検討会・抄読会に参加する。また、抄読会で 1 回の発表をおこなう

4.7 診療科合同カンファレンスへ出席し、症例の検討に参加する

- (1) 毎週月曜日：消化器外科カンファレンス
- (2) 毎週火曜日：呼吸器外科カンファレンス

診療科別放射線科プログラム（選択）

頁

3/4

- (3) 毎週水曜日：耳鼻咽喉科カンファレンス
- (4) 毎週金曜日：婦人科カンファレンス
- (5) 第 1.3 木曜日：小児科カンファレンス

5. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	読影、11:30～12:30 症例検討／抄読				
		治療研修			
午後	読影、IVR				
	各科カンファレンス				
	消化器外科 (毎週) 泌尿器科 (最終週)	呼吸器外科 (毎週)	耳鼻咽喉科 (毎週)	小児科 (第 1.3)	産婦人科 (毎週)

6. 経験目標

6.1 経験すべき診察法・検査・手技等

6.1.1 医療面接

6.1.2 基本的な身体診察法

6.1.3 基本的な臨床検査

(1) CT・MRI の読影

(2) 画像診断報告書の作成

6.1.4 基本的な臨床手技

6.1.5 基本的治療

(1) 放射線治療計画

6.2 経験すべき症候 ＊必須 ◎責任担当科（番号は 29 症候番号）

(1) 骨転移による痛みや麻痺

(2) 脳転移による頭蓋内圧亢進症状や巣症状

(3) 事故等による骨盤骨折

(4) 腹腔内出血

7. 評価

7.1 形成的評価

- (1) ローテート中に入院症例にて経験した症候、疾病・病態に対する病歴要約を 1 件（4 週ごと）作成する。作成方法：カルテに記載した SOPA 記事を、研修医評価システムへ貼り付け考察を加える。

7.2 到達目標評価

診療科別放射線科プログラム（選択）

頁

4/4

-
- (1) ローテート中に経験した習得事項から、資質・能力に対する内省コメントを2件以上作成する。
 - (2) 研修医評価システムにて、EPOC I・II・IIIの評価表を用いた指導医評価を受ける。